

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年10月23日 (2008.10.23)

【公表番号】特表2008-512496(P2008-512496A)

【公表日】平成20年4月24日 (2008.4.24)

【年通号数】公開・登録公報2008-016

【出願番号】特願2007-531440(P2007-531440)

【国際特許分類】

C 0 7 D 209/38 (2006.01)

C 0 7 D 491/052 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/407 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/24 (2006.01)

A 6 1 P 31/10 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 D 209/38 C S P

C 0 7 D 491/052

A 6 1 P 1/04

C 0 7 B 61/00 3 0 0

A 6 1 K 31/407

A 6 1 P 1/16

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 25/24

A 6 1 P 31/10

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 25/28

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月5日 (2008.9.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

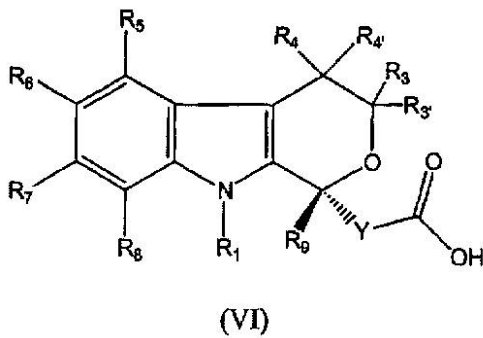
【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

[ 発明の概要 ]

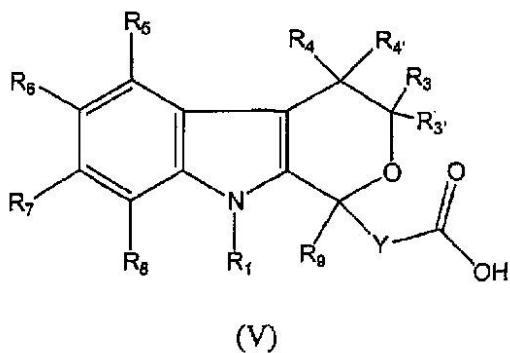
本発明は、式 (VI) :

【化 1 2】



で表される化合物を、式 (V) :

【化 1 3】



で表される化合物から合成する方法を対象としている。

[但し、 $R_1$  が H、炭素原子数 1 ~ 12 個の直鎖のアルキル、炭素原子数 3 ~ 12 個の分岐アルキル、炭素原子数 3 ~ 12 個のシクロアルキル、炭素原子数 2 ~ 7 個のアルケニル、炭素原子数 2 ~ 7 個のアルキニル、又は炭素原子数 7 ~ 12 個のアリールアルキル若しくはアルキルアリールを表し、これらの全ては必要により置換されていても良く、

$R_3$  及び  $R_{3'}$  が H を表し、

$R_4$  及び  $R_{4'}$  が相互に独立して、H、炭素原子数 1 ~ 12 個の直鎖のアルキル、炭素原子数 3 ~ 12 個の分岐アルキル、炭素原子数 3 ~ 12 個のシクロアルキル、炭素原子数 2 ~ 7 個のアルケニル、炭素原子数 6 ~ 12 個のアリール、フラニルメチル、炭素原子数 7 ~ 12 個のアリールアルキル若しくはアルキルアリール、炭素原子数 2 ~ 7 個のアルキニルを表し、これらの全ては必要により置換されていても良く、又は

$R_4$  及び  $R_{4'}$  は、これらに結合する環の炭素原子をともなう場合、カルボニル基を表し、

$R_5 \sim R_8$  が相互に独立して、H、炭素原子数 1 ~ 12 個の直鎖のアルキル、炭素原子数 3 ~ 12 個の分岐アルキル、炭素原子数 3 ~ 12 個のシクロアルキル、炭素原子数 2 ~ 7 個のアルケニル、炭素原子数 6 ~ 12 個のアリール、炭素原子数 2 ~ 9 個のヘテロシクロアルキル、フラニルメチル、炭素原子数 7 ~ 12 個のアリールアルキル若しくはアルキルアリール、炭素原子数 2 ~ 7 個のアルキニル、フェニルアルキニル、炭素原子数 1 ~ 8 個のアルコキシ、炭素原子数 7 ~ 12 個のアリールアルコキシ、炭素原子数 1 ~ 12 個のフルオロアルコキシ、炭素原子数 1 ~ 6 個のアルキルチオ、トリフルオロメトキシ、トリフルオロエトキシ、トリフルオロメチルチオ、トリフルオロエチルチオ、炭素原子数 1 ~ 7 個のアシル、 $\text{COOH}$ 、 $\text{COO}-C_{1 \sim 12}$  アルキル、 $\text{CONR}_{12}R_{13}$ 、F、Cl、Br、I、CN、 $\text{CF}_3$ 、 $\text{NO}_2$ 、炭素原子数 1 ~ 8 個のアルキルスルフィニル、炭素原子数 1 ~ 6 個のアルキルスルホニル、ピロリジニル、又はチアゾリジニルを表し、こ

これらの全ては必要により置換されていても良く、

$R_{12}$  及び  $R_{13}$  が相互に独立して、H、炭素原子数 1 ~ 12 個の直鎖のアルキル、炭素原子数 3 ~ 12 個の分岐アルキル、炭素原子数 3 ~ 12 個のシクロアルキル、炭素原子数 6 ~ 12 個のアリール又は炭素原子数 2 ~ 9 個のヘテロシクロアルキルを表し、これらの全ては必要により置換されていても良く、

$R_9$  が H、炭素原子数 1 ~ 12 個の直鎖のアルキル、炭素原子数 3 ~ 12 個の分岐アルキル、炭素原子数 3 ~ 12 個のシクロアルキル、炭素原子数 2 ~ 7 個のアルケニル、炭素原子数 2 ~ 7 個のアルキニル、炭素原子数 2 ~ 12 個のアルコキシアルキル、炭素原子数 7 ~ 12 個のアリールアルキル若しくはアルキルアリール、炭素原子数 1 ~ 8 個のシアノアルキル、炭素原子数 2 ~ 16 個のアルキルチオアルキル、炭素原子数 4 ~ 24 個のシクロアルキル-アルキル、炭素原子数 6 ~ 12 個のアリール、又は炭素原子数 2 ~ 9 個のヘテロシクロアルキルを表し、そして

Y が結合、 $CH_2$ 、 $CH_2CH_2$ 、炭素原子数 6 ~ 12 個のアリールを表すか、又は  $R_9$  と Y が、これらに結合する環の炭素原子をともなう場合、炭素原子数 3 ~ 8 個のスピロ環シクロアルキルリングを更に形成しても良い。] ; 上記の方法では、式 (V) で表される化合物を分割剤と一緒に溶解させて、再結晶化によって式 (VI) で表される化合物を得る工程を含む。